



ぼくのたからもの

岸野 一平 小2(湯梨浜町)

作者の弟妹の仲睦まじいコマです。とてもシンプルな構図ですが鑑賞する側に、タイトルがそのまま伝わる素晴らしい作品です。妹さんのサングラスがとても良いアクセントに感じます。

上手にスイカ、われたかな？

特別賞

植尾 穂果 小3(南部町)

スイカ割りの情景を余す事なく切り取り、まさしくシャッターチャンスの一瞬の作品です。人物の誇らしげな表情がよく、また縦構図で写した事により、余分な映り込みがなく、より被写体が引き立つ素晴らしい作品です。



夕空に舞う

小矢野 美心 小6(北栄町)

夏の日の夕暮れ近くの波打ち際で、印象的な雲と夕焼けと北条の風車を遠景して女性が子供を喜ばせるために「たかいたかい」をしている瞬間を撮影しています。主題となる女性の子供を支えているために伸ばした腕が画面に緊張感や躍動感を持たせています。これらの画面を構成する要素の位置や大きさのバランスがとても良い作品です。



勉強よりお昼寝

藤谷 麻央 中1(南部町)

家庭学習をしているときのコマでしょうか？のんびり欠伸をしている猫と、映ってはいませんが真剣に学習している撮影者の自分とを対比させた作品です。画面を構成するものに無駄がなく、本棚、猫、辞書類をバランスよく配置しています。ピントとプリントの仕上がりも良い秀作です。



優しい背中

夏目 蒼史 中2(伯耆町)

大地から見上げるようなローアングルで撮影されており、被写体が空に向かってそびえたつような力強さや開放感を感じる作品となりました。夕方の逆光を活かしたシルエットも非常に効果的です。題名の「優しい背中」からすると、被写体の人物は力強さだけでなく、優しさも併せ持っているようです。



To the Next Stage

田村 悠人 中3(鳥取市)

入学式当日でしょうか。少女の横顔は「未来への視線」を感じさせます。まさにこれからNext Stageが始まる希望と喜びとわずかな緊張感が入り混じったポートレートです。ランドセルの水色が背景の桜のピンクと美しく対比・調和して画面に明るい未来への予感と祝福の気持ちを抱かせる作品となりました。



くものおんがくかい

畑田 茅乃 小1(米子市)

雲の演出を余す事なく広角で撮影したことが素晴らしく、センスの良さが感じられます。



水でっぼう、ブシャーッ!

辻田 晴真 小3(大山町)

情景をシャドーで表現したところが、作者の意図が感じられ面白く良い作品です。



ないしょだよ、おおばあばは ネギにむちゅう

市橋 俊太 小3(米子市)

木に登っている子供の表情がとても面白く、構図もとてもわかりやすい良い作品です。



ヤゴからトンボへ大変身!! 「朝露を身にまとった神秘の姿」

三崎 ゆい 小6(倉吉市)

ぎりぎりまで近づいて撮影しています。ピントも良く、羽の水滴も綺麗にプリントされています。



さあどこへ行こうか

磯江 弘翔 小6(江府町)

夏の日に山道を歩く兄弟の様子です。道と兄弟の位置と大きさがバランスよく配置されている作品です。



夕日をつかまえろ!!

首藤 瑠那 中1(大山町)

画面奥まで続く道と夕日に向かってシャボン玉を飛ばしている少女をバランスよく配置して撮影されています。



弟

上杉 琥太郎 中1(米子市)

海岸で対象となるモデルを真正面から撮影しています。砂まみれの様子から楽しかった様子が伝わってきます。



夏の思い出

遠藤 舜太 中2(米子市)

夜の暗さの中に提灯の光が浮かび、この光が人々のシルエットを浮かび上がらせています。



どんどん とんでけ～

堀江 凜 中2(米子市)

大きなシャボン玉と少年の配置が良いです。少年が笑顔で声を出している様子も題名にぴったりです。

4人でジャンプした

O.H 中3(鳥取市)

4人の被写体の位置がばらけていて、動きのリズムが生まれています。青空と芝生の対比も良いです。



平和への想い

妹尾 周哉 中3(伯耆町)

画面から静かで穏やかな時間を感じさせますが、被写体の姿と新聞から平和の尊さも伝わる作品です。



(講評及び作品評は各部門審査員が執筆)

●小学校

昨年より応募件数が増えた事は大変喜ばしい傾向だと感じます。作品の傾向としては、小学生ならではの、その時の出会いを素直に被写体を捉えている作品が多く、既成概念のない作品が多く見られ、どの作品も優劣の付けにくい状況でした。また賞を受賞された作品は、中学生の方々の作品受賞者と比較しても、見劣りしない作品が多くあり今後のチャレンジに大いに期待を寄せるところです。

今回感じた事は、全体的に撮影期間が夏時期の作品が多く、違った季節の作品があればより良かった様に感じます。また、「タイトル」の事です、作品の説明文的なタイトルが多く感じられるので、少し工夫が必要に感じました。

●中学校

今年度は応募数が増えました。大変うれしく思います。スマホでも手軽に撮影ができる今日この頃なので、これかもどんどん写真にチャレンジして欲しいと思います。

中学生ともなると、社会的な視点が生まれてきて、写真の内容にも反映されていました。今年は戦後80年ということもあり、そのことを心に刻んだ人がいて、撮影した作品が見られました。戦後80年といっても、どのような作品にするのかは人それぞれ違います。心にあることをどのように表現するのか、そこも写真表現の面白さだと思います。撮る人によってこんなにも違うのだということを審査しながら改めて感じさせてもらいました。

毎年書いていますが、写真印刷は写真専用の紙でお願いします。練習で普通紙に印刷するのは良いと思いますが、応募作品は写真専用紙でお願いします。写真専用紙なら入選したのものにもったいないーという作品も結構見られましたので。

●特別賞 「上手にスイカ、われたかな？」 植尾 穂果 小3(南部町)



この作品はピントやプリントの仕上がり、画面構成、色合い等々が申し分ないだけでなく、この瞬間に至るまでのこの様子を見ていると想像される周りの人々の声や動きと気持ちを感じられます。この瞬間までに「もっと右」、「もう一歩前」の掛け声とともにこの子にこの儀式を成功させてやりたいと願う表情も見えてくるようです。そしてその成果を本人の「われたかな?」という顔と見事なスイカの赤で表現しています。写真表現の可能性を感じられる作品になりました。